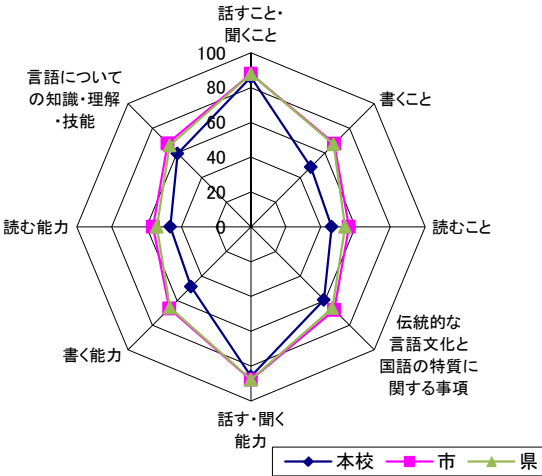


宇都宮市立西が岡小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.0	87.9	87.8
	書くこと	48.6	67.6	67.1
	読むこと	46.4	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.3	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	86.0	87.9	87.8
	書く能力	48.6	66.3	65.7
	読む能力	46.4	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	59.6	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

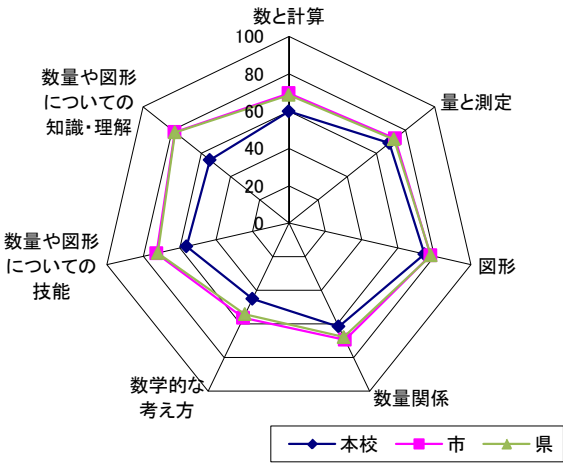
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	話すこと・聞くことは、市の平均より2%下回った。 ○互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことは、市の平均及び県の平均を1%上回った。 ●話の中心に気を付けて聞くことは、市の平均及び県の平均を3%下回った。 ●話し方の工夫に気を付けて聞くことは、市の平均及び県の平均を3%下回った。	話の内容を聞き取るための共通点や相違点には気付くことができています。今後は、朝の会や帰りの会の伝達の際や、会話科での「伝言ゲーム」、「どんな風に聞いたらいのかな」、「聞き方名人」の活動を通して、話の中心を逃さずに聞くこと、相手の話し方の工夫に気付けるように良い例を挙げながら指導していきたい。
書くこと	書くことは、市の平均より19%下回った。 ●作文は、招待する手紙を敬体で書くこと、来てくれるようお願いする言葉を書くこと、読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるよう注意して書くことが市の平均より20%前後下回った。	書くことに関するものは、作文(手紙)の内容であった。児童の様子を見ると、時間配分が間に合わず、作文に手がつけられていない児童も多くいた。また、書くこと自体に苦手意識をもつ児童もいる。そこで、書くことが楽しくなるような題材を用意したり、時間を区切って書いたりすることで、書く力を伸ばしたい。
読むこと	読むことは、市の平均より8%下回った。 ○物語の内容の理解において、場面の様子を叙述を基にして読むことができることは、市の平均と同じであった。 ●目的や必要に応じて、中心となる語をとらえることができるは、市の平均の27%下回った。 ●与えられた情報から、資料の特徴を理解すること	文章の中のキーワードとなる言葉に線を引いたり、段落ごとに要点をまとめたりする活動を通して、中心となる言葉の理解を高めたい。また、算数や理科で学ぶグラフや表の読み取りをを繰り返し練習させ、資料の特徴をつかませ、資料が意図する事柄に着目できるよう取り組ませたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は、市の平均より7%下回った。 ○漢字の読みは、市の2%上回った。 ○ローマ字の学習は、ほぼ平均であった。 ●指示語の使い方は、市の24%下回った。 ●反対の意味の言葉の理解は、市の10%下回った。	指示語は、日常的に「こそあど言葉」を用いているが、意識的に用いている児童の姿は少ないように思われる。そこで、児童が発する言葉の一つ一つに改めて注目して考えさせたい。反対語の意味についての理解をうながすために、国語辞典をいつでも使うことができるような環境づくりに努め、朝の学習や授業の中で意味調べを取り組ませたい。

宇都宮市立西が岡小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	69.6	68.7
	量と測定	68.8	72.8	72.0
	図形	74.6	77.8	78.0
	数量関係	61.6	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	45.0	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	56.3	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	54.2	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

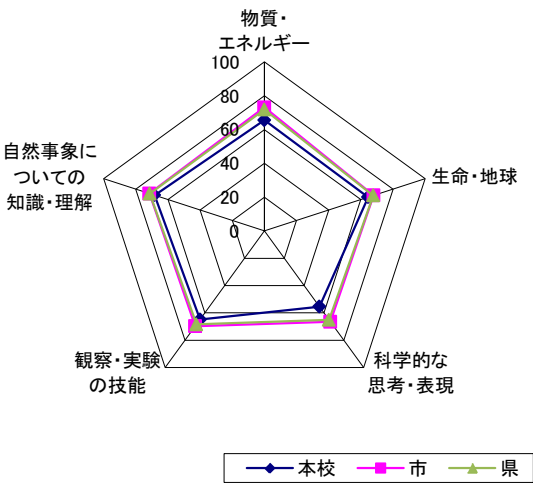
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域全体では59.9%と、市の平均正答率より10%程度低い。 ⇒○3位数+3位数の繰り上がり2回の計算の正答率が93.5%と、市の平均正答率より4%高い。 ⇒●数直線上に示された分数の表し方についての正答率が38.7%と、市の平均正答率より18%低い。	・加減乗除の基礎的な計算問題のドリル学習を徹底し、整数、大きい数、小数、分数などの計算に慣れさせる。また、随時復習問題に取り組ませることで、基礎的な計算力を習熟させる。
量と測定	●領域全体では68.8%と、市の平均正答率より4%低い。 ⇒○はかりに示された重さの読み取りの正答率が80.6%と、市の平均正答率より3%高い。 ⇒●ある時刻から一定時間前の時刻を求める正答率が66.1%と、市の平均正答率より10%低い。	・身のまわりにある単位について、具体的に振り返らせて、時間や長さの単位についての興味を持たせる。また、時刻と時間についても、随時間いかけて考えさせる機会を多くする。
図形	●領域全体では74.6%と、市の平均正答率より4%低い。 ⇒○二等辺三角形の定義の理解の正答率が88.7%と、市の平均正答率より6%高い。 ⇒●円の直径についての理解の正答率が77.4%と、市の平均正答率より10%程度低い。	・円や球の性質を具体物を利用しながら理解させ、半径や直径の関係を理解させる。また、実際に作図する機会を多く取り入れる。
数量関係	●領域全体では61.6%と、市の平均正答率より8%程度低い。 ⇒○棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示す問題の正答率が82.3%と、市の平均正答率より1%程度高い。 ⇒●文章問題を解くために除法の式を立式し、その式から正しい答えを求める問題の正答率が61.3%と、市の平均正答率より17%程度低い。	・□を使った式についての計算をドリル学習で習熟し、計算に慣れさせる。また、文章問題にも多く触れさせることで、図で表したり、式にまとめたりする機会を多くとる。

宇都宮市立西が岡小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.6	73.1	71.8
	生命・地球	64.6	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	55.4	66.5	65.0
	観察・実験の技能	64.8	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	68.4	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域全体では65.6%と、市の平均正答率より8%程度低い。 ⇒○磁石は場所によって鉄を引きつける力の大きさが違うことを求める問題の正答率が95.2%と、市の平均正答率より1%程度高い。 ⇒○回路の意味を答える問題の正答率が75.8%と、市の平均正答率より4%程度高い。 ⇒●ソケットを使わない場合でも、導線を正しく接続し豆電球に明かりをつけることができることを答える問題の正答率が40.3%と、市の平均正答率より24%低い。	・実験の際、それぞれの実験を行う意味や内容を詳しく理解させ、必ず自分なりの予想を立ててから実験に取り組ませる。また、実験の結果のまとめ方にもその予想と比較する機会を設ける。 ・電気の通り道に関する実験を良く想起させ、豆電球に明かりをつける実験を復習する。
生命・地球	●領域全体では64.6%と、市の平均正答率より3%程度低い。 ⇒○昆虫によって変態の仕方が違うことを答える問題の正答率が72.6%と、市の平均正答率より12%程度高い。 ⇒●日なたの地面の明るさと占める具合を答える問題の正答率が61.3%と、市の平均正答率より15%低い。 ⇒●地面の温度を正しく測る問題の正答率が56.5%と、市の平均正答率より15%程度低い。	・日なたと日かげについて復習し、地面の様子をもう一度観察したり、地温を測定したりしながら太陽と地面の様子を体験的に実感させる。

宇都宮市立西が岡小学校第4学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

●「家で学校のじゅ業のふく習をしている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は45.2%と、市の平均を11%程度下回っていた。宿題において復習の課題をやっているが、自主的に取り組む割合が少ないと考えられるので、家庭学習において復習に積極的に取り組めるよう声をかけていきたい。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の設問に肯定的に回答した児童の割合は53.2%と、市の平均を10%下回っていた。テストのまちがい直しをしてから家庭に戻すようにしているのに、内容については理解できるようになっていると考えられるが、復習のように、まちがい直しをしてももう一度自分なりに復習できるような課題に取り組ませよう声をかけていきたい。

○「学校の宿題は、やりたくなるような内容だ」の設問に肯定的に回答した児童の割合は79.0%と、市の平均を10%上回っていた。昨年度に比べると宿題に取り組む児童の割合も増えていることから、学習に取り組む意欲が増しているところであると考えられる。そのため、その宿題に興味を追求する内容や、授業の予復習を組み合わせながら取り組ませたい。

●「勉強していてふしぎだなあ、なぜだろうと感じていることがある」の設問に肯定的に回答した児童の割合は69.4%と、市の平均を15%程度下回っていた。学習において導入の仕方に工夫を加え、児童に興味関心を高めるような学習形態にも配慮していきたい。

●「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見をさい後まで聞くことができる」の設問に肯定的に回答した児童の割合は82.3%と、市の平均を10%下回っていた。授業中の教師の授業や指示においても同様の傾向が見られ、最後まで話が終わる前に行動を起こしてしまうことが多い。日頃から、話を最後まできちんと聞くことや、文末まできちんと話をすることを重点的に指導続けたい。

●「だれに対しても思いやりの心をもってせっている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は71.0%と、市の平均を15%下回っていた。友達関係は割合安定しているようなので、一人一人を大切にできる心を実感させて、より安定した友達関係を築かせたい。

○「自ぜんやうちゅうなど、科学の内ようをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのはすきだ」の設問に肯定的に回答した児童の割合は83.9%と、市の平均を10%程度上回っていた。自然や宇宙に対する興味関心が高い表れである。「理科が好き」や「理科がよくわかるか」などの肯定的な割合も市の平均を上回っていることから、今後も意欲的に理科の学習に取り組めるように授業に力を入れるだけでなく、家庭学習においても積極的に自然や宇宙の内容に取り組ませたい。